

## 緑の担い手

# 「緑の雇用」 研修二年目を 終えて

常陸大宮市森林組合

和田 真 志

私が、森林組合に勤務するようになってから二年が経ちました。森林組合に入るきっかけは、知人の紹介でした。山の仕事そのものにはそれほど興味はありませんでしたが、自然の中で体を動かす仕事をしたいと思っていました。

組合に入って最初の仕事は、トビで丸太を山の上から落としてくる作業でした。はじめは、トビで丸太を動かすことが難しく、大変な作業でした。先輩達の指導により少しずつ動かせるようになりましたが、一日の作業が大変つらかったことを覚えています。私は、先輩達と比べると何一つ満足に出来ることはなく、先輩や同僚に迷惑をかけてしまうのではないかと心配と不安の毎日でした。

ほどなく、「緑の雇用」研修を受けることになり、チェーンソーの使い方や機械の操作を学ぶようになり

ました。今では、チェーンソーでの伐倒、グラップルでの集材を中心とし、プロセッサも少しだけ扱えるようになってきました。

日々の研修の中で、私が一番注意を受けるのが安全な作業の進め方です。少しの油断で大きなケガになってしまうことなど、仕事前の朝礼などで安全に関する指導を受けていますが、これからも安全第一で作業に取り組んで行きたいと考えています。

まだまだ仕事には慣れていませんが、「緑の雇用」事業の研修を通して、さらに知識や技術の習得に努め、地域に貢献できるよう頑張って参りたいと思います。

